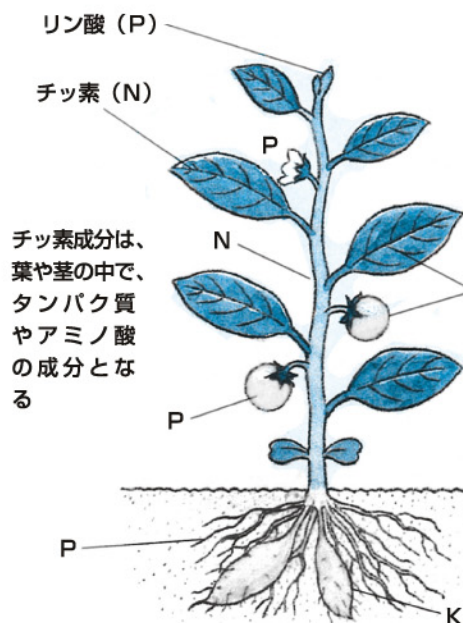


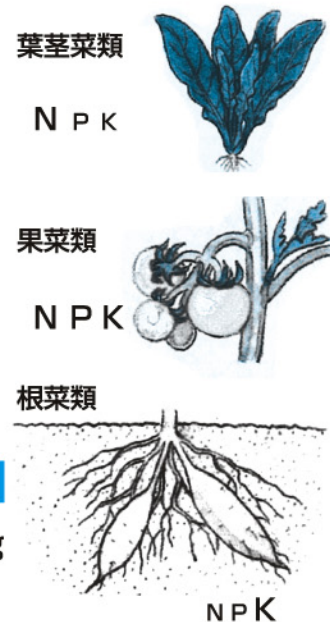
6 肥料について

野菜づくりと肥料のはたらき



リン酸成分は、生長の盛んな部分や花やつぼみ、種に多く、根の伸長にも大きなはたらきをする

カリ成分は、光合成を盛んにし、果実のつきや育ちをよくし、イモ類の品質をよくする。また、チッ素の効きすぎを抑える



肥料として必要な元素

大量要素 N P K Ca Mg S Fe
微量元素 Mn Cu B Zn Mo

植物は根によって土壌中の養分を水とともに吸収し、太陽エネルギーによって葉が空中から吸収した二酸化炭素と結びつけ、その光合成産物によって体を生長させ、果実や種子、根、茎、葉などに養分をたくわえ、それらを大きく、充実させます。

野菜はとくにたくわえる器官を大きくするよう改良、収穫物がたくさんとれるようにしてあるので、土壌中に含まれる養分では吸収に足りず、多くの成分を人間の手で補ってやる必要があります。

肥料の成分によって体内でのはたらきを異にするので、野菜の種類によって補う成分の量は大きく異なります。

肥料成分が欠乏すると各種の症状や障害が発生し、収量はもとより、品質も大きく損ねてしまうことになります。

肥料の欠乏と症状、障害

チッ素 (N)

葉色が悪くなり、葉が小さくなる

《健》



《欠乏》



リン酸 (P)

葉にアントシアニンが発生、紫色になる



カリ (K)

葉の周辺が黄褐色に枯死する



石灰 (Ca)

新しくできる若い葉、その葉先が黒変する。果実の尻部が黒変する (トマト)



鉄 (Fe)

若い葉の部分の緑色が発現しない



ホウ素 (B)

葉がもろくなり、果実はヤニをふいて軟化する (キュウリ)



モリブデン (Mo)

花蕾を形成しない (カリフラワー)

